

平成24年度

第1回岡山市保健福祉政策審議会における主要な意見

- 1 日 時 平成24年5月28日(月) 13:56~16:25
- 2 場 所 岡山市勤労者福祉センター4階 大会議室
- 3 出席者 委員6名、参考人1名
- 4 傍聴者 報道2社、傍聴者6名
- 5 議 題
 - ・参考人の意見陳述
 - ・「岡山市の就学前教育・保育の在り方」(素案)について
- 6 主要な意見
 - <基本方針について>
 - ・幼保一体化には賛成であるが、成果と課題等利用者の声を反映させてほしい。
 - ・目標年度などを入れ込んでいくとより具体的でよい。
 - ・既存の施設を活用していくことは賛成だが、午後の保育部分が増えることが予想されるため、1・2歳の拡充をしてほしい。
 - ・保育園の教育が不十分とは思わない。学校教育のカリキュラムが入る意義を明確にしてほしい。幼稚園の教育でコミュニケーション能力や社会性というものは育つのか。学校教育というものにとらわれすぎて、発達障害児への対応が遅れるのではないか。
 - <公の果たすべき役割について>
 - ・幼保一体運営開始後において、保護者・提供者(職員)・子どもたちの姿から評価を行いながら運営していくことが、公の担う部分ではないかと感じる。
 - <施設配置の最適化について>
 - ・保護者に多くの選択肢を与え、兄弟関係や自宅・職場の位置等のニーズに柔軟に対応しながらも、一貫性を保てるような配置計画にしてほしい。
 - ・利用者が集中する地区は集中することも念頭に置いて検討し、他の小学校区だから利用できないということにはならないようにしてほしい。
 - ・障害があるお子さんをもたれて働いている保護者にも対応できるように考えてほしい。
 - ・幼稚園や保育園にとらわれがちになるが、教育と保育の両方の力を持った職員が子どもに教育と保育を施すことは、質の向上につながるだろう。
 - ・職員の質の向上はもちろんのこと、労働条件を整え、量の確保をすることも重要である。